

病棟紹介

救命救急センター

救命救急センター師長 藤本 みどり



救命救急センターのスタッフは救急外来と救命救急センター、カテーテル検査室などで勤務を行っています。島根県西部地区の基幹病院として地域の救急医療を担っており、24時間体制で1次から3次までの救急患者様の受け入れを行っています。

昨年度の救急外来患者数は11,139名、救急車受け入れ台数は2,708台（ヘリ搬送含む）で、手術やカテーテル処置等の緊急治療に対応すると共に、救命救急センターには、多発外傷、脳血管の疾患、循環器系の疾患、呼吸器系の疾患などの救急患者様が入院されます。救急外来・救命救急センターで働くスタッフは、様々な状況下で限られた時間と少ない情報の中での適切な対応、危機的状況にある患者様とその家族への精神的ケア、多職種へのコーディネート、退院後を見据えたサポートが求められます。

そのため、必要な知識や技術、コミュニケーション能力や調整力を身に着けるべく自己研鑽に努めています。特定行為研修終了の集中ケア認定看護師、皮膚排泄ケア認定看護師が在籍し、専門領域の指導と実践を行っているほか、ICLS（医療従事者のための蘇生トレーニング）、JPTEC（重症外傷傷病者に対する早期救命活動）、JNTEC（外傷初期診療と看護実践能力）、

DMAT（災害派遣医療チーム）等の資格を持つスタッフが、エンジ色のスクラブに身を包み臨床で力を発揮し患者様に向き合っています。

他の病棟に比べ男性看護師が多く勤務していますが、厳しい中にも細かな気遣いと優しさのある職場です。プライベートでは女子会だけでなく男子会が存在するようです。

現在、救命救急センターでは、集中治療に対する看護と共に、手術後の合併症予防のために離床プログラムを用いた早期リハビリテーションに取り組んでいます。

また、救命救急センターで治療を受けた患者様が、救命救急センターを退室後にみられる身体的・認知的・精神的な症状（PIPS：集中治療後症候群）への対応として、患者様が集中治療の場の記憶と体験を取戻し、受けた治療やケアを知り、現状の健康状態を理解するためのツールであり、PTSD（心的外傷後ストレス障害）を軽減する目的でICU日記の利用に取り組んでいます。

スタッフ一同、患者様のQOL（生活の質）の向上を念頭に置き、質の高い看護ができるよう努めます。

